

10月15日（火）

ミレニアムパーク視察

ミレニアムパーク財団事務局長のEd Uhler氏より説明を受けながら公園内を案内いただいた。

この場所はもともと鉄道線敷や駐車場であったが、1998年に当時のシカゴ市長のデイリー氏のもと、周辺整備を行う目的で再開発の事業が始まった。計画が進むに伴い今世紀最大の都市公園を造るとの機運が高まり、2千年紀に合わせて完成する予定が2004年までずれ込んだ。整備資金も当初の予定を大きく上回り約4億7,500万ドルに膨れ上がったが、この整備資金の約半分は一般の寄附により賄われた。



クラウドゲートにて

公園内には庭園や緑地だけでなく、劇場、ギャラリー、アイススケートリンクのほか様々なアトラクションが配されており、中でも「ジェイ・プリツカー・パビリオン」という名のコンサートホールは独創的なデザインとともに、4,000の客席を有し、芝生部分を合わせると10,000人以上が同時に音楽を楽しめる音響設備が設置されており、同公園を代表する施設となっている。また、噴水施設「クラウンファウンテン」では水の流れるタワー壁面に1,000人のシカゴ市民の顔が随時映し出され、親水の間としてだけでなく目で楽しむことのできる空間を提供している。そのほか、鏡面加工が施されたステンレス製の巨大なオブジェ「クラウドゲート」は通称「ザ・ビーン」と呼ばれ、同公園の訪問者に大きな驚きと感動を与えている。

このようにミレニアムパークは今やシカゴ市の象徴となる公園となっており、観光資源として大きな経済効果ももたらしているとのことであった。

シカゴ副市長表敬訪問

シカゴ市役所において、スティーブン・コッチ副市長を表敬訪問した。

田中副市長、コッチ副市長、高山市会副議長の挨拶のあと、大都市行政における施策について意見交換を行い、都市インフラや観光施策、財源の問題等について情報交換を行う事ができ、意義のある訪問となった。

【田中副市長 挨拶要旨】

両市は1973年のパートナー都市提携以来、幅広い分野において活発な交流を展開してきた。シカゴでは姉妹都市協会がワールド・ビジネス・シカゴに統合されたと聞いているが、本市では国際課を経済戦略局の所管としており、今後姉妹都市のネットワークを活用した経済交流を活性化させたい。今後もお互いの施策から学びあい、相互発展していけるような友好協力関係を築いていきたい。



【スティーブン・コッチ副市長 挨拶要旨】

今回、姉妹都市提携40周年にあたり、皆様をお迎えできる事を喜ばしく思う。

私も訪日の際に大阪に伺ったことがあるが、インフラの整備が進んでおり特に大阪には感銘を受けている。今後も姉妹都市関係の強化を進め、大都市行政の施策について学ばせていただきたい。

【高山副議長 挨拶要旨】

姉妹都市提携40周年を祝うためにお招きいただき感謝する。40周年の節目を迎え両都市の絆がより緊密になり友好関係が一層発展することを願う。

今回の訪問においては、シカゴマラソンの応援、シカゴ美術館、科学産業博物館などを視察させていただいた。集客・運営手法等についての先進的な取り組みを是非参考にさせていただきたい。

【意見交換概要】

シカゴ市：シカゴ市ではインフラ、特に上下水道の整備等に力を入れてきたが、政府からの資金も削られ、限られた財源の中での取り組みに苦心した。

大阪市：大阪は市政開始から100年以上が経っており、比較的早い段階でインフラが整備されてきた。現在は、地震と老朽化への対応のための改修が課題である。財源が限られているという課題は共通するが、都市機能の向上や観光促進など、都市の成長への投資とのバランスをどのように取っていくかが問題である。

シカゴ市：シカゴ市でも観光施策を見直しているところであるが、徹底的な調査の結果、大都市ゆえにコンベンションや展示会施設等の利用は行われているものの、プロモーションと個人の娯楽への視点に欠けている事がわかった。今後、交通などのインフラ投資とテーマパーク等の集客力の向上

を目指す必要を感じている。

大 阪 市：昨日リバーズカジノを視察させていただいたが、財政面でもメリットがあり、治安上の問題もないという話であった。観光施策の検討の中で、カジノ誘致は考えなかったのか。

シカゴ市：市の収入が増えるというのはいいが、大都市におけるカジノについて、本来の都市計画や住民の生活の質を考えた場合に、どちらがいいのかという様々な意見がある。犯罪に関しては、アメリカではカジノに関する対策がしっかりと取られており心配することはないが、それよりも市の資源がカジノに流れることが懸念される。20年～25年間議論はなされているが、結論は出ていないような状況である。



スティーブン・コッチ副市長を囲んで

ユナイテッド航空本社訪問

シカゴ市内でもひととき目を引く高層ビル、ウィリスタワー内に所在するユナイテッド航空本社を訪問し、関西空港の地元自治体と経済界で構成される関西空港全体構想促進協議会の地元自治体を代表する立場で、田中副市長より同社による大阪＝シカゴ間の直行便の就航について要請



を行った。

対応いただいた同社上級副社長のデイヴ・ヒルフマン氏からは、直行便の要請という当社への関心を示していただきありがたく思うとともに、営業担当の立場としては素晴らしいご提案であり、スケジュール担当、財務担当とも相談して検討していきたいとの返答があった。



オペレーションセンターの様子

同行した新関西国際空港会社の担当者からは、関西国際空港の魅力、直行便を就航させることのメリット等について説明が行われた。

その後、社内のネットワークオペレーションセンターを案内いただいた。ここでは、約350人の従業員が24時間体制で同社の航空機の運航状況や整備状況、人員、機材の確保等を集中的に管理しており、安全で効率的な運航に取り組んでいるとの事であった。

在シカゴ日本国総領事表敬訪問

在シカゴ日本国総領事館を訪ね、吉田総領事への表敬訪問を行った。冒頭、田中副市長より、今回の大阪プロモーションセミナーの会場提供や集客などの面で多大な協力を頂いた事についての御礼が述べられた。限られた時間の中での懇談ではあったが、吉田総領事からは、アメリカと日本を取り巻く世界の情勢から、シカゴ市やイリノイ州の状況などをお話いただいた。



吉田総領事と懇談

大阪プロモーションセミナー及びネットワーキングレセプション

大阪・シカゴ姉妹都市提携40周年を機に、企業関係者、国際交流団体等に対して大阪の魅力を情報発信する、大阪プロモーションセミナーを開催した。

まず、「関西イノベーション国際戦略総合特区」について、大阪・関西が強みをもつ医療・医薬といったライフサイエンス分野や、再生可能エネルギー・スマートコミュニティといった新エネルギー分野に関する規制緩和や税制優遇制度等について説明を行うとともに、市内の特区である大阪駅周辺地区、夢洲・咲洲地区について紹介し、大阪への投資促進を呼びかけた。

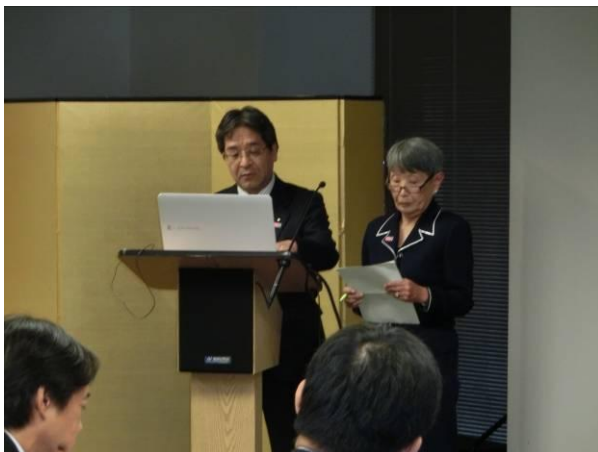
次に新関西国際空港株式会社から、国際拠点空港としての関西国際空港の役割について、関西の中心となる地理的な優位性、アメリカとの国際便の状況、中国・東南アジアとのネットワークの充実などを交えて紹介された。

続いて三菱地所株式会社からは、特区の一つである大阪駅周辺地区の中心施設グランフロント大阪について、進められ



ている様々な取り組みなどの紹介があった。また、グランフロント大阪への進出企業を代表して、シカゴのIT企業であるシルクロード・テクノロジー社から、「なぜ大阪を選ぶのか」と題するプレゼンテーションを行っていただき、大阪のビジネス環境の優位性をアピールしていただいた。

日本貿易振興機構（JETRO）シカゴ事務所からも、日本の経済復調と海外



田中副市長より挨拶

からの投資促進への取り組み、JETROと海外企業との関わりや成功事例などの紹介とともに、日本・大阪へのビジネス展開を呼びかけていただいた。

セミナーの後、引き続きレセプションを開催し、各界からの参加者に交流の場を提供することにより、より詳しく大阪の魅力を発信するとともに、大阪・シカゴのビジネス交流に向けたネットワークづくりに寄与するものとなった。



レセプションにて交流

おわりに

今回、姉妹都市提携40周年記念事業としてシカゴ市を訪問したが、現地でのスケジュールが3日間という短期間ではあったものの、表敬訪問や意見交換など様々な形でシカゴ市及び姉妹都市関係者の方々と交流を深めることができ、大変有意義な訪問であったと思う。

また、文化施設等の視察においては、施設の設置や運営に関して公的機関が一方的に進めるのではなく、民間の力が源流であり市民からの多大な支援により成り立っている事がわかり、シカゴの人々の文化に対する意識の高さをうかがい知ることができた。

今回の出張を通して、シカゴ市と大阪市の40年の交流の歴史を再認識することができ、都市間交流を草の根のネットワークで支えていただいている関係者の方々のご苦勞を知る事もできた。ビジネスや経済だけでなく、福祉や文化といった様々な交流が両市の関係を一層強く結び付けており、民間の力に任せるだけでなく行政のバックアップの重要性も痛感させられた。

最後に、今回の海外出張に際し、事前の準備及び現地での案内、随行等でお世話になったシカゴと大阪両市の関係者の皆様に心からお礼申し上げます。